

城北中学校区新統合小学校整備にかかる地域懇談会を開催します

令和7年4月開校に向け、現在検討が行われている城北中学校区新統合小学校について、建設基本計画（案）などをお示しし、ご意見をお聞きするため「城北中学校区新統合小学校整備にかかる地域懇談会」を統合する4つの小学校で開催します。

建設基本計画（案）の作成にあたっては、城北中学校区新統合小学校建設基本計画

城北中学校区新統合小学校整備事業計画にかかる地域懇談会開催日程

- ◇ 10月22日（金）
会場：東小学校ランチルーム
- ◇ 10月25日（月）
会場：戸狩小学校ランチルーム
- ◇ 10月26日（火）
会場：泉台小学校ランチルーム
- ◇ 10月28日（木）
会場：常盤小学校ランチルーム
※時間はいずれの会場も
午後6時30分～8時です

城北中学校区以外にお住いの市民の方も参加いただけますので、ぜひご来場ください。
ご不明な点は子ども育成課学校教育係（☎67-0741直通）へお問い合わせください。



多くの保護者に参加いただいた意見交換会（写真は東小学校会場）

22日に開催した第3回の城北中学校区新統合小学校建設基本計画検討委員会でも更に検討を行い、このほど計画案を取りまとめたものです。

市では、今回開催する地域懇談会での意見を参考に、11月中に建設基本計画を策定し、12月末までには基本設計業務を完了させる予定です。お問い合わせ先
飯山市教育委員会事務局
子ども育成課 学校教育係
☎67-0741（直通）

通学路の緊急合同点検を実施 市内小中学校通学路の危険箇所を現地確認



教育関係者、道路管理者である市や県の担当者、警察官などが現地を確認しました。

今年6月に千葉県で発生した通学中の児童5人が死傷した交通事故を受け、9月29日、市内小中学校の通学路点検を実施しました。

点検には学校および市関係者のほか、飯山警察署、長野県北信建設事務所からも参加いただき、小中学校から改善要望があった189カ所のうち、事前会議などで特に緊急に点検の必要があるとされた17カ所について現地を確認。実際に現地において学校の先生から状況をお聞きしながら、白線の引き直しや横断歩



横断歩道の白線が消えかかった箇所は引き直しを要望。

道の設置など各校から出された改善要望内容を踏まえ確認が行われました。
今後は点検結果に基づき、関係機関と対応策を検討していく予定です。

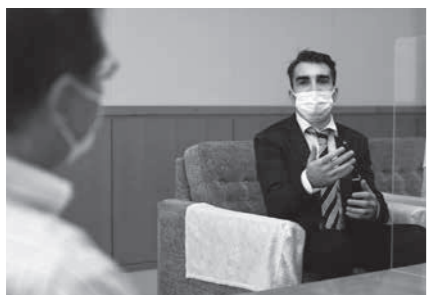
ありがとう！パトリック先生 こんにちは！レイモン先生

ALT（外国語指導助手）として、平成30年から市内小学校で英語の授業を担当していたオヤン・パトリック・チャールズ先生が9月末で退任されました。パトリック先生は児童が興味を持ってもらえるようICT教材を積極的に取り入れた授業や、気さくに児童と接する人柄で多くの児童に親しまれました。自身はオーストラリア出身で飯山で初めて雪を見たそうですが、冬はスノーボードに親しむなど飯山での生活を楽しみながら任期を満了しました。

また8月1日からは新しいALTとしてオーストラリア出身のバラガンス・レイモン先生が着任。2学期から市内小学校での英語授業を行っています。



退任したパトリック先生



着任にあたり足立市長と懇談するレイモン先生。

いずみだいい保育園で贈呈式

市出身の方が経営する企業が放送機材を寄贈

9月7日、いずみだいい保育園でワイヤレスアンプ・マイクの贈呈式が行われました。これは、東京の株式会社ブレイブ様から八十二銀行の「八十二地方創成SDGs応援私募債」により寄贈いただいたものです。

この日の贈呈式は、同社代表取締役で旧柳原保育園（現・いずみだいい保育園）に通っていた中島将太さんが東京からオンラインで参加。保育園か



寄贈いただいた機材（写真中央）は、9月25日の同園運動会でも活躍しました。

令和3年度全国学力・学習状況調査の結果

昨年度はコロナ禍により実施できなかった「全国学力学習状況調査」について、本年度は5月に小学校6年生および中学校3年生を対象に実施しました。

小学校は、国語科で全国平均を5ポイント程度下回りましたが、算数科では全国平均を上回りました。

中学校では、国語科で全国平均を5ポイント程度下回りましたが、数学科では全国平均とほぼ同程度の結果となりました。

各校では一人一人の子どもが「分かった、できた」と実感もてる授業にするために、学力調査の結果を詳細に分析し、児童生徒の更なる学力向上に向け活用していきます。

	学校別	教科	全国	飯山市
飯山市と全国 の平均正答率比較 (%)	小学校 6年生	国語	65	60
		算数	70	71
	中学校 3年生	国語	65	60
		数学	58	56

人権学習シリーズ

ちがいをチカラにかえる〇〇

城北中学校長 青木 修

「ちがいをチカラにかえる」というフレーズを、最近耳にしました。

Society 5.0の時代の到来、担い手となる子どもたちには、解のない「問い」に、一人ひとりのチカラを活かして、みんなが協働して向かう態度・人間性の育ちが求められています。それに向けた学校の取り組みを表したものです。

これとは別に、「同調圧力」という言葉も頻りに耳にしました。「少数意見を持つ人に対して、周囲の多くの人と同じように考え行動するよう、暗黙のうちに強制すること」というような意味のことです。SNSの普及やコロナ禍により同調圧力が過激化しているとの話も聞きました。

多くの学校では多様な子どもたちの個性や資質・能力を活かし、どの子も活躍できる「ちがいをチカラにかえる学校」づくりに取り組んでいます。また、学校外でも様々なところで「ちがいをチカラにかえる〇〇」づくりが進んでいる

のではないかと思います。「ちがいをチカラにかえる」のためにまず、誰にでも人権があることを認識し、尊重する姿勢を身につけることが必要です。同時に、自身が尊重されるべき人間であるということにも気がつかなければなりません。

城北中学校では、生徒会スローガン「our energy is unlimited」の「私（My）と私たち（Our）」を大事に、自らのチカラを活かして行動しようとしています。

行動を通して、「私たち」の中にあるそれぞれの「私」の大切さ、一人ひとりのチカラを正しく活かして進めることを再確認し、学校祭の準備や合唱の練習、授業での学び合いに取り組んでいます。

「ちがいをチカラにかえる」。地域のちがいが、人々の多様な個性、様々な資質・能力等々を活かし、皆さんの周りでは、どんな「ちがいをチカラにかえる〇〇」が進められていますか？